

万博公園春の渡り鳥調査結果 (2011年度)

調査期間 2011年4月15日～5月5日

調査目的・方法など 2010年までと同一

製作：吹田野鳥の会

協力：独立行政法人 日本万国博覧会記念機構

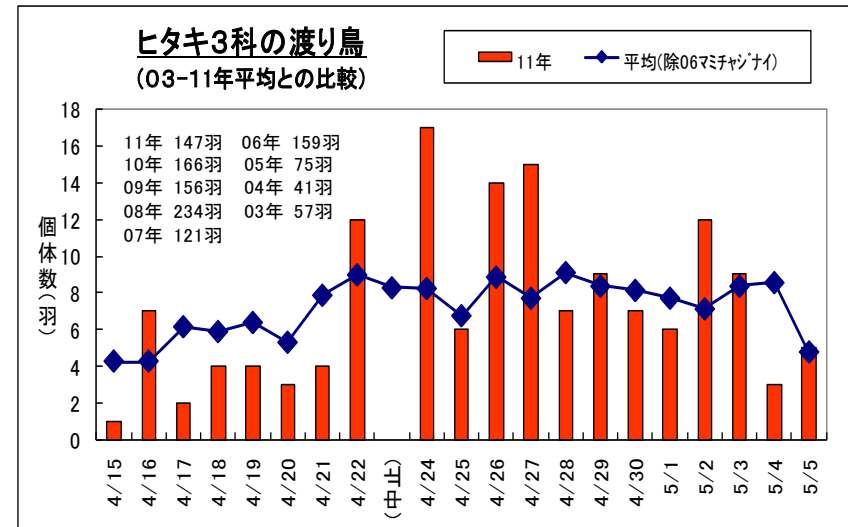
①ヒタキの仲間

1. 11年ヒタキの仲間の概要

- ・11年ヒタキの渡り鳥は 11種、10 年に比しコマドリが見られなかったものの、マミチャジナイ・オオヨシキリの2種を新しく確認したことから、1種増となった。
- ・個体数は 147 羽で、10 年に比し 19 羽減となり過去 5 位、アカハラ・マミチャジナイを除く種でも過去 4 番目と、最近 5 年間では幾分低目の観察数となった。
- ・種別では 09、10 年観察できなかったオオヨシキリが 2 羽観察できた。センダイムシクイはここ数年ほぼ変わらず 25 羽前後であったが、キビタキは昨年より 30%減の 32 羽に止まった。またオオルリも昨年と同様に少なく、下から3番目の 18 羽、過去最大 06 年 34 羽の半数に止まった。

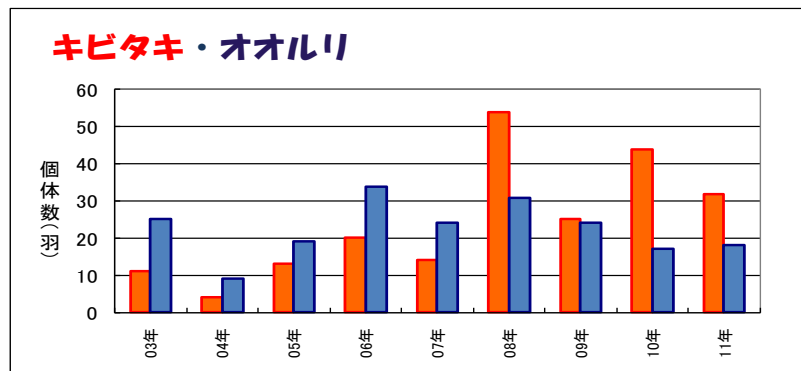
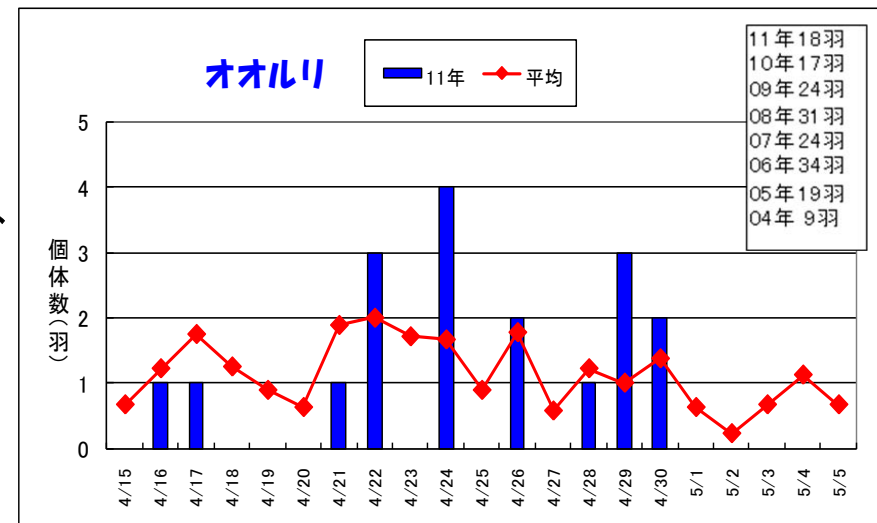
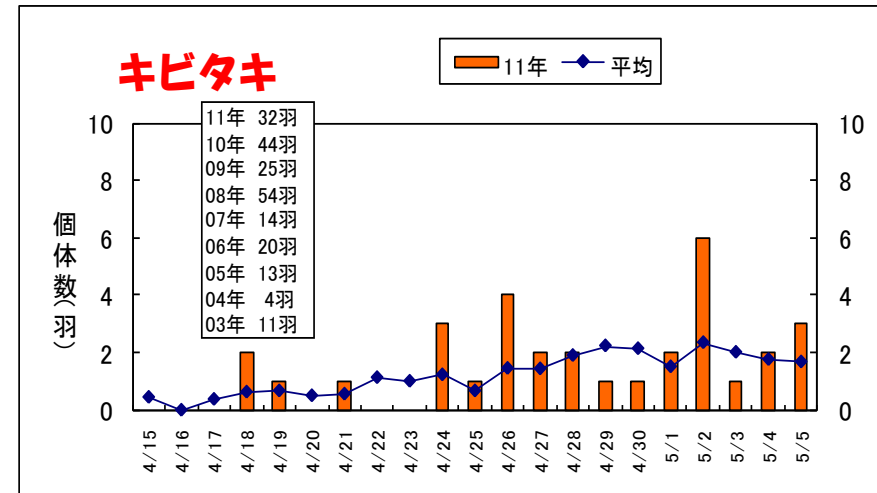
- ・ヒタキ3科の確認羽数は、前半が平均より少なかったが、4/22~27(23日は雨で中止)にアカハラ・キビタキ・オオルリ・センダイムシクイが良く観察でき平均以上の日が集中した。また 5/2 にはキビタキが多く後半のピーク日となった。昨年は渡りのピークは 4 月末ごろであったが、本年は 4/25 前後が渡りのピークであったことを示している。
(尚、平均データは 03~11 年平均。但しマミチャジナイが非常に多く観察された 06 年を除く)

	11年	10年	09年	08年	07年	06年	05年	04年	03年	(11-10年)	
ツグミ科	コマドリ	0	1	0	0	0	0	1	2	▲1	
	コルリ	0	0	0	2	0	0	1	0	0	
	ノビタキ	1	3	0	3	2	5	0	0	▲2	
	クロツグミ	4	2	2	5	0	1	0	2	+2	
	アカハラ	58	57	69	98	29	76	7	5	3	+1
マミチャジナイ	1	0	5	2	0	282	0	0	0	+1	
ウグイス科	ヤブサメ	0	0	0	4	1	0	0	2	0	
	オオヨシキリ	2	0	0	1	0	1	0	1	+2	
	メボソムシクイ	1	2	0	0	0	2	0	1	2	▲1
	エゾムシクイ	1	2	7	5	7	2	11	4	2	▲1
	センダイムシクイ	24	28	22	25	38	14	25	13	7	▲4
ヒタキ科	キビタキ	32	44	25	54	14	20	13	4	11	▲12
	オオルリ	18	17	24	31	24	34	19	9	25	+1
	コサメビタキ	5	10	1	4	6	4	1	1	0	▲5
	個体数計	147	166	155	234	121	441	76	41	57	▲19
種数	11	10	8	12	8	11	6	10	10	+1	
除アカハラ・マミチャジナイ 88 109 81 134 92 83 69 36 54 ▲21											



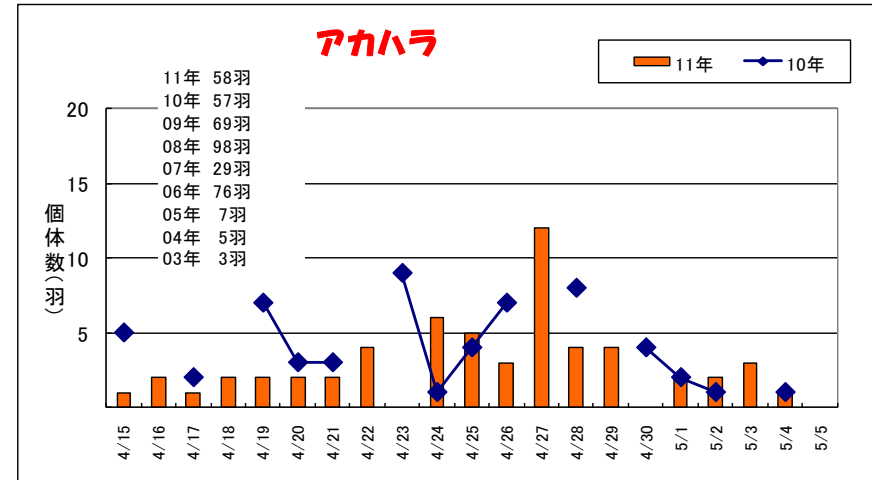
2. ヒタキ科キビタキとオオルリ

- ・本年キビタキは前半ほとんど確認できなかった。後半は平均を超えた日があり、中でも 5/2 には最大の 6 羽を数えたが、全体では昨年比 70%の 32 羽、と過去 3 番目にとどまった。
- ・一方、オオルリはトータル 18 羽、昨年より 1 羽増であったが、最大数 34 羽を確認した 06 年の半減となった。また 5 月に入ってからは確認できなかった。
- ・キビタキとオオルリの年毎の確認数は、07 年まではオオルリが多かったが、08 年以降はキビタキが多くなっている。
- ・万博公園の密生林(常緑樹林)が自然遷移により、オオルリよりもキビタキの好む樹林に変化しているのが一因と思われる。
- ・日本野鳥の会大阪支部が開催している平地～低山の探鳥地で、繁殖期に確認できる両種の割合はオオルリが多かったが、最近ではキビタキ繁殖が多く見られる傾向にある。里山林の常緑化が進みキビタキが好む環境に変化してきていると思われる。万博公園も同じ傾向で、キビタキ繁殖が期待される状況にある。



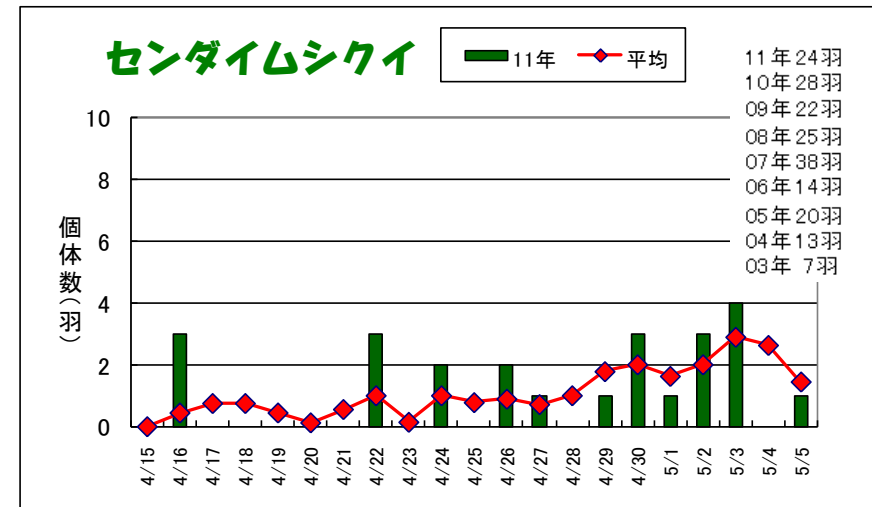
3. ツグミ科アカハラ

- ・アカハラは 58 羽と 10 年とほぼ変わらず、まずまずの確認数であった。
 昨年は確認できなかった日が5日もあったが、本年は2日に減少した。



4. ウグイス科センダイムシクイ

- ・センダイムシクイは 24 羽と 10 年より 4 羽減少したが、ここ 4 年間は 25 羽前後を推移している。調査期間の第一週は 1 日 3 羽に止まっているのに対し、第2週以降は徐々に確認数が増え、5 月になってからは4羽確認した日もあるので、センダイムシクイの渡りは 5 月に入って本格化していることがうかがえる。



5. その他ヒタキの仲間

- ・ヒタキ科コサメビタキは昨年 10 羽を確認できたが、本年はこれまでの平均レベルの5羽にとどまった。本種は春の渡り鳥の中ではさえずりが静かなので見つけにくい鳥である。
- ・ツグミ科ではノビタキ1羽(10年は3羽)、クロツグミ4羽(10年は2羽)確認したが、昨年確認できたコマドリは見る事ができなかった。
- ・ウグイス科オオヨシキリを2羽確認した。草原の鳥であるはずなのに樹幹の中でさえずっていた。

②ヒタキ以外の渡り鳥

1. ハタオリドリ科ニューナイスズメ

- ・ 本年は確認数が 100 羽を超えた日が 4 日もあったことから、10 年の 441 羽に対し倍以上の 991 羽と過去最大数を確認することができた。特に 4 月 19 日から 26 日にかけてが確認のピークで、以後は急に観察数が少なくなり、4 月下旬までに通り過ぎてしまうと考えられる。

2. そのほかの渡り鳥

- ・ チドリ科コチドリは 10 年の 7 羽から 11 羽に増加した。例年水すましの池での確認が多いが、本年は東の広場での確認がほとんどであった。
- ・ サンショウクイ科サンショウクイが 8 羽、しかも 4/26 に 7 羽を集団で確認できた。通常は樹林帯にいる筈のところ、疎林にいたので移動の途中と思われる。

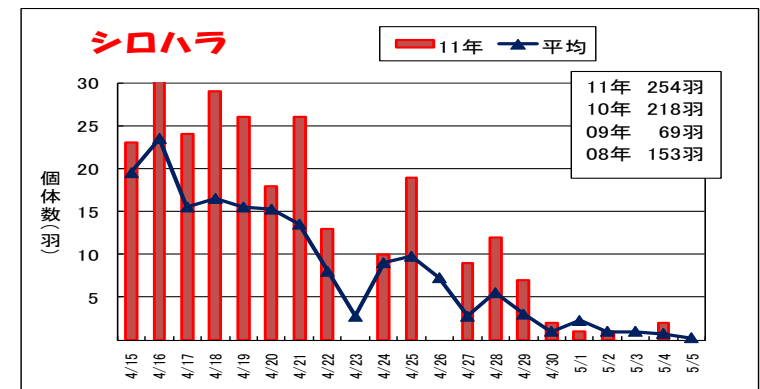
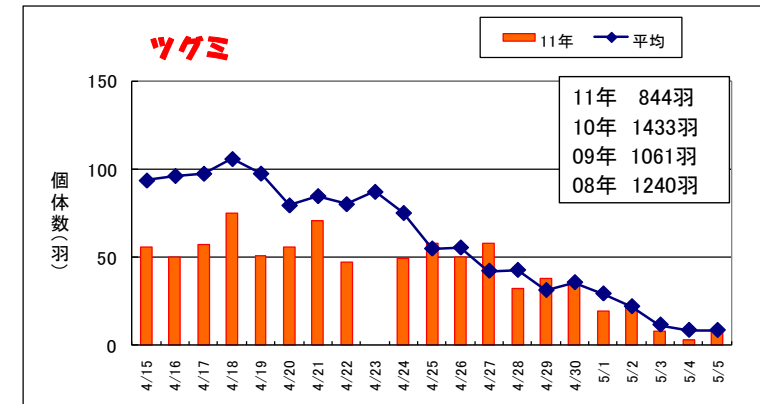
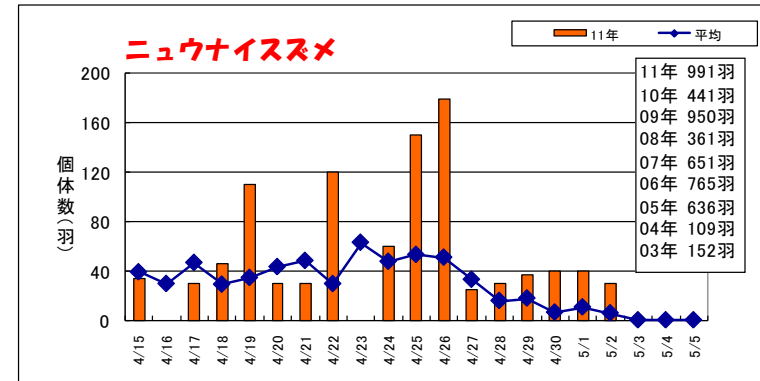
③冬鳥の状況

1. ツグミ科ツグミ

- ・ ツグミは 10 年の 1433 羽から 844 羽とほぼ半分しか確認できなかった。従来 4 月中旬は 100 羽近く確認できているのに 50 羽程度と少なかった事による。しかし最終日にも 8 羽もいて、終認日は確認できなかった。

2. ツグミ科シロハラ

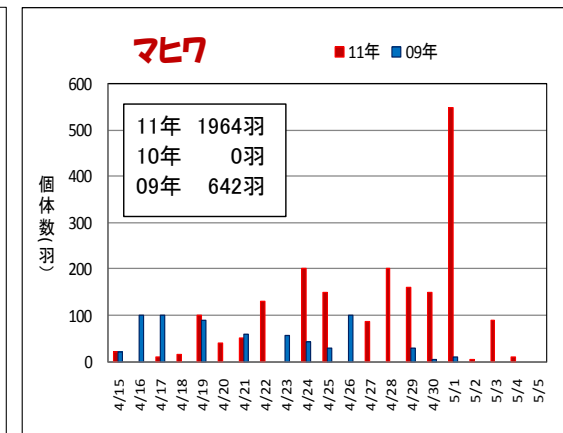
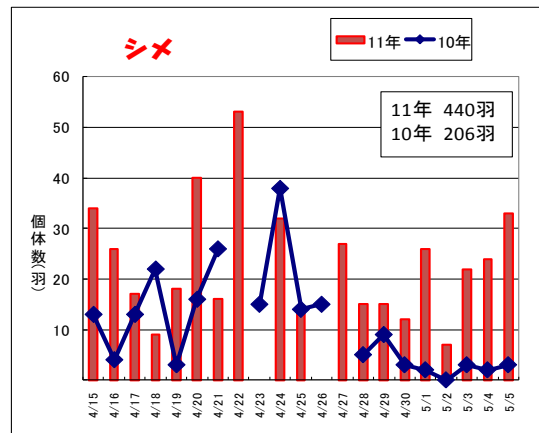
- ・ 逆にシロハラは最近の 4 年間では確認数が最も多い、254 羽を数えた。4/21 までほぼ毎日 20 羽以上、4/28 までは 10 羽以上を確認できたが、4/28 以降は 0~2 羽となった。渡去傾向はツグミとほぼ同じであった。



3. アトリ科シメ 10年の206羽から大きく増えて440羽をカウントした。また調査期間の後半でも20羽以上を確認した。10年は09年より渡去が遅かったが、本年はさらに遅くなっており、最終日にも33羽確認できた。

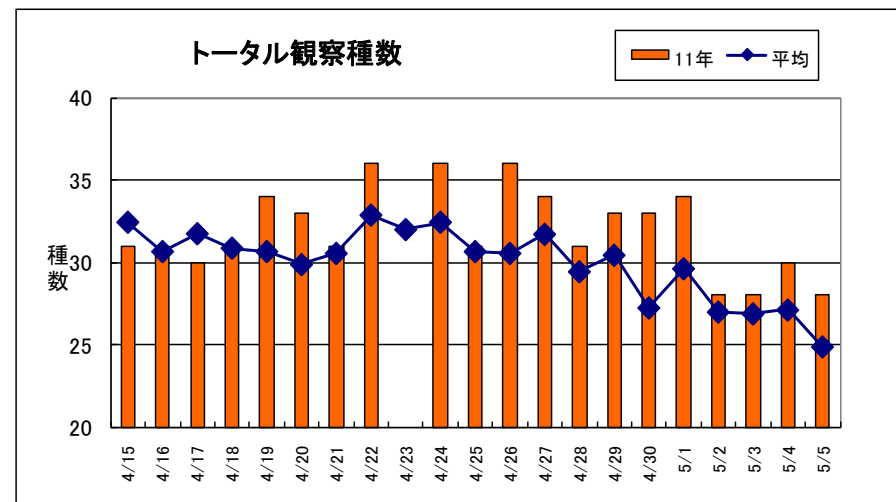
4. アトリ科アトリ 10年の286羽より大幅に少ない11羽にとどまった。

5. アトリ科マヒワ 10年は全く観察できなかったが、1964羽と過去最大の確認数となった。今シーズンは大阪近郊の定例探鳥会でも各地でマヒワを非常に多く観察しており、近年まれなマヒワのあたり年であった。



⑤ トータル観察種 (別表)

- ・ 確認種数平均は32種、調査期間中に確認した種トータルは55種で、10年より若干多く確認ができた。
- ・ 確認した全種の一覧表は別表に示した。
- ・ 調査した20日間とも確認できた種は10年より4種多く15種に上がった。昨年に比べるとカイツブリ・ハクセキレイ・ウグイス・シメが全日確認できた。



⑥渡り鳥の確認場所について(別図①～⑤)

1. 渡り鳥の確認した場所を別図1～5に示した。

今年アカハラ・キビタキ・センダイムシクイ、そしてニュウナイスズメがまずまずの数を確認したので、それらの4種を中心に、別図からわかった渡り鳥の好む場所を考察してみる。

2. キビタキ(別図1) 54羽確認できた08年は常緑樹林に多かったが、今年園内一円に分散しており、常緑樹林・落葉樹林のいずれも利用している結果となった。

オオルリ・コサメビタキ(別図1) 確認数が少ないので特定しにくいだが、落葉樹林に多かった。

3. センダイムシクイ(別図2) メボソムシクイ・エゾムシクイを加えた3種は、園内一円の落葉樹林で確認された。

4. アカハラ(別図3) 東の広場周辺の常緑樹林で最も多く、陽だまりの池からケヤキの丘にかけての落葉樹林にも多かった。

5. ニュウナイスズメ(別図④) 日本庭園の東側～北側に広がるクヌギを中心とする落葉樹林や、下の広場のケヤキなど園内各地の落葉樹林で観察できた。

6. 以上まとめると、アカハラ・オオルリ・センダイムシクイ、そしてニュウナイスズメなどは明るい落葉樹林を好むが、キビタキだけは落葉樹林のほか常緑樹林も好んでいることがわかった。

7. この調査を開始した目的が、大阪城公園に比し渡り鳥が少ないのは何故?ということであるが今年も真実はわからなかった。キビタキを除く春の渡り鳥にとって最も良い環境は、明るい落葉樹林であること、常緑樹林であっても密植により樹冠が密閉され真っ暗で人が入れない森ではなく、林床が明るく人が自由に入れるような疎林が、渡り鳥に好まれていると思われる。

(以上)

(尚、今年の調査は吹田野鳥の会会員延べ53名の協力により実施したものである)

2011年 調査時に観察した鳥リスト(全種) 2/2

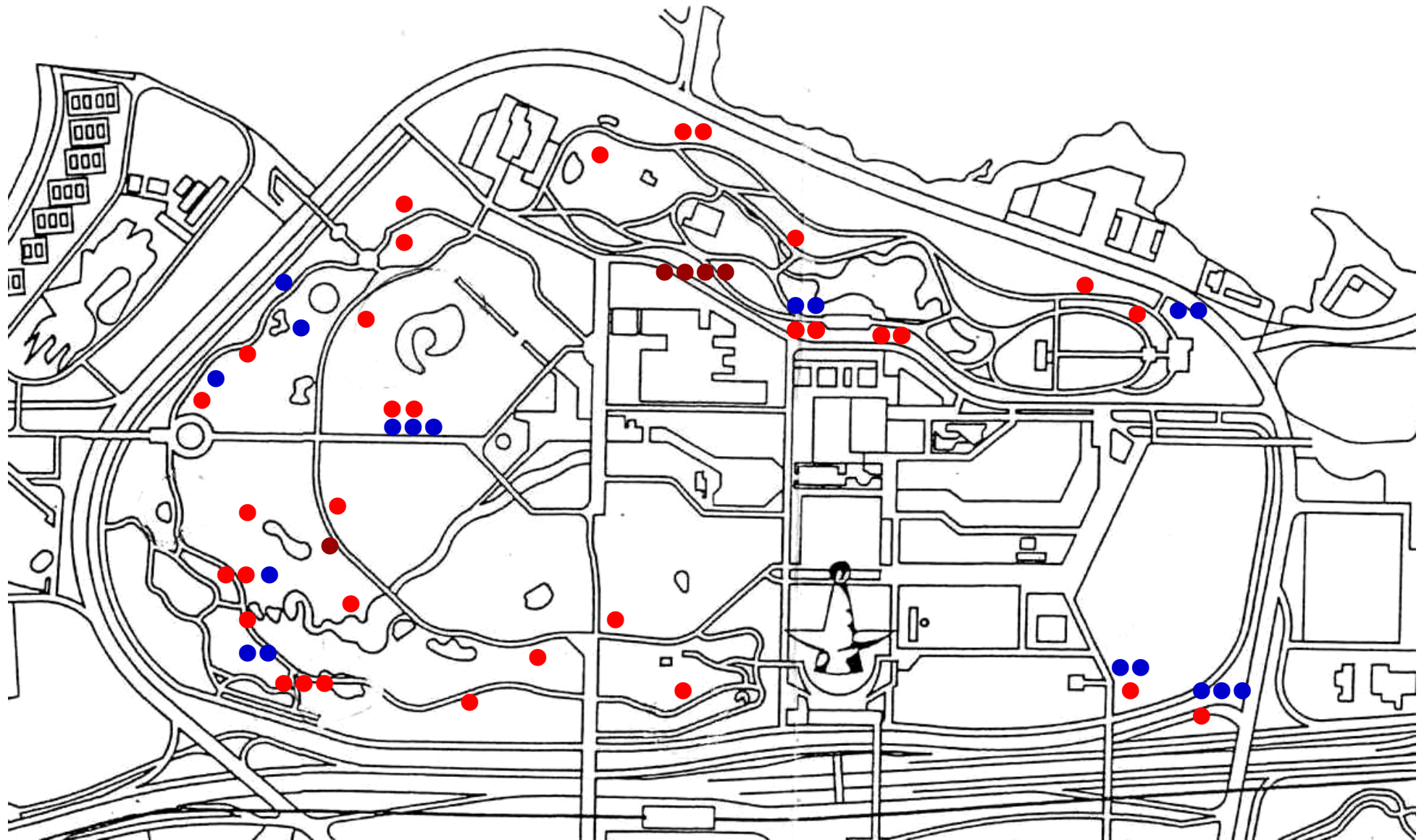
No.	科名	種名	4/15	4/16	4/17	4/18	4/19	4/20	4/21	4/22	4/23	4/24	4/25	4/26	4/27	4/28	4/29	4/30	5/1	5/2	5/3	5/4	5/5	11年観 察日数	10年観 察日数	10年比 増減	11年観 察個体数	10年観 察個体数	10年比 増減	09年観 察日数	08年観 察日数	07年観 察日数	06年観 察日数	05年観 察日数	04年観 察日数	03年観 察日数	種名		
46	ツグミ	ルリビタキ		1	1	1	1																	4	4		4	4								1	ルリビタキ		
47	ツグミ	ノビタキ		1																				1	3	▲2	1	3	▲2		1	2	4					ノビタキ	
48	ツグミ	トラツグミ		○																				1		+1										1	トラツグミ		
49	ツグミ	クロツグミ					1	1		1									1					4	2	+2	4	2	2		2	5		1	2	2	クロツグミ		
50	ツグミ	アカハラ	1	2	1	2	2	2	2	4		6	5	3	12	4	4		2	2	3	1		18	14	+4	58	57	1	17	18	11	17	6	4	3	アカハラ		
51	ツグミ	シロハラ	23	32	24	29	26	18	26	13		10	19	○	9	12	7	2	1	1		2		18	17	+1	254	218	36	14	18	20	21	13	10	14	シロハラ		
52	ツグミ	マミチャジナイ												1										1		+1	1		1	4	2		21					マミチャジナイ	
53	ツグミ	ツグミ	56	50	57	75	51	56	71	47		49	58	50	58	32	38	36	19	22	8	3	8	20	19	+1	844	1433	▲589	20	19	20	21	17	18	20	ツグミ		
54	ウグイス	ヤブサメ																																		2	ヤブサメ		
55	ウグイス	ウグイス	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	20	18	+2				14	9	6	6	7	17	11	ウグイス		
56	ウグイス	オオヨシキリ																		1				1	2	+2	2		2		1					1	オオヨシキリ		
57	ウグイス	メボソムシクイ																			1			1	2	▲1	1	2	▲1				2	1	2		2	メボソムシクイ	
58	ウグイス	エゾムシクイ								1														1	1		1	2	▲1	5	5	4	1	7	2	2	エゾムシクイ		
59	ウグイス	センダイムシクイ		3						3		2		2	1		1	3	1	3	4		1	11	11		24	28	▲4	10	11	9	7	10	8	7	センダイムシクイ		
60	ヒタキ	キビタキ				2	1		1			3	1	4	2	2	1	1	2	6	1	2	3	15	14	+1	32	44	▲12	11	17	9	13	9	4	9	キビタキ		
61	ヒタキ	オオルリ		1	1				1	3		4		2		1	3	2						9	10	▲1	18	17	1	10	12	10	18	9	6	8	8	オオルリ	
62	ヒタキ	コサメビタキ										2		2				1						3	7	▲4	5	10	▲5	1	4	6	3	1	1		1	コサメビタキ	
63	エナガ	エナガ	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	15	17	▲2				18	18	18	16	14	12	13	エナガ		
64	シジュウカラ	ヤマガラ	○	○	○		○	○	○		○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	16	17	▲1				17	17	19	18	13	10	10	ヤマガラ		
65	シジュウカラ	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	20	19	+1				20	20	20	21	20	18	20	シジュウカラ		
66	メジロ	メジロ	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	20	19	+1				18	20	20	21	20	17	20	メジロ		
67	ホオジロ	ホオジロ																																			2	ホオジロ	
68	ホオジロ	ノジロ																																					ノジロ
69	ホオジロ	アオジ		5		3	8	1	2	5		4	2	○	2	1	1		2					13	15	▲2	36	81	▲45	14	16	18	13	15	14	17	アオジ		
70	ホオジロ	クロジ																																	2	2			クロジ
71	アトリ	アトリ							1	6		4												3	9	▲6	11	286	▲275	12	6	14	1	4	12	3	アトリ		
72	アトリ	カワラヒワ	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	20	19	+1				20	20	20	21	20	18	19	カワラヒワ		
73	アトリ	マヒワ	20		10	16	100	40	50	130		200	150	○	85	200	160	150	550	3	90	10		18		+18	1964		1964								マヒワ		
74	アトリ	イカル	○	○		○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	17	14	+3				18	16	20	14	17	18	13	イカル		
75	アトリ	シメ	34	26	17	9	18	40	16	53		32	14	○	27	15	15	12	26	7	22	24	33	20	18	+2	440	206	234	20	17	9	17	6	11	10	シメ		
76	ハタオリドリ	ニュウナイズメ	34		30	46	110	30	30	120		60	150	179	25	30	37	40	40	30				16	14	+2	991	441	550	15	12	13	14	12	8	5	ニュウナイズメ		
77	ハタオリドリ	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	20	19	+1				20	20	20	21	20	18	19	スズメ	
78	ムクドリ	コムクドリ																																					コムクドリ
79	ムクドリ	ムクドリ	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	19	18	+1				20	20	18	21	20	18	20	ムクドリ	
80	カラス	カケス	○											○										2		+2												カケス	
81	カラス	ハシボソガラス	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	20	19	+1				20	20	20	21	20	18	20	ハシボソガラス	
82	カラス	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	20	19	+1				20	20	20	21	20	18	20	ハシブトガラス	
計		11年	31	31	30	31	34	33	31	36	中止	36	31	36	34	31	33	33	34	28	28	30	28	639	592	+47				620	629	636	663	559	485	507	11年		

11年春の渡り鳥① ヒタキ科

●オオルリ 18羽

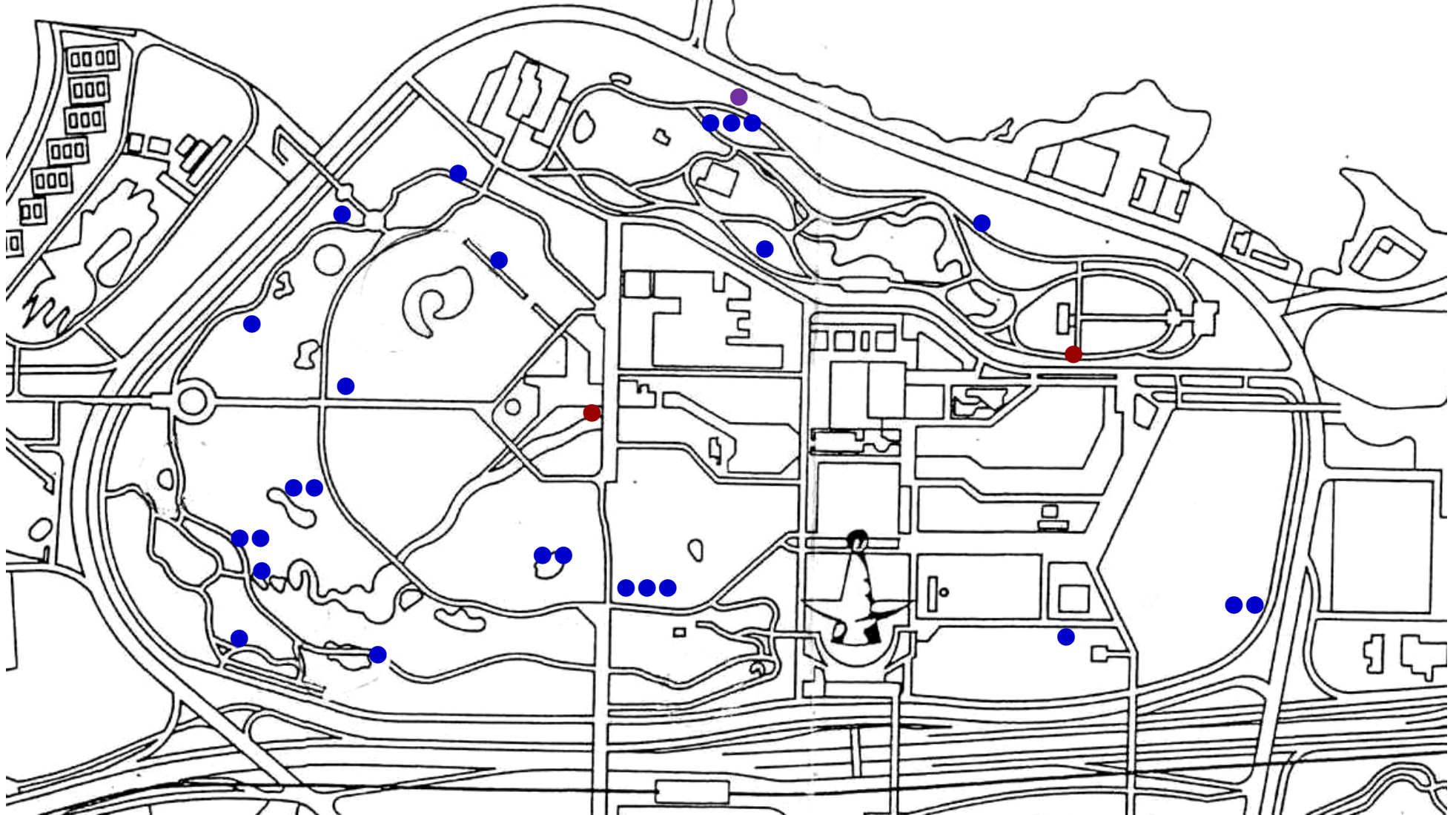
●キビタキ 32羽

●コサメビタキ 5羽



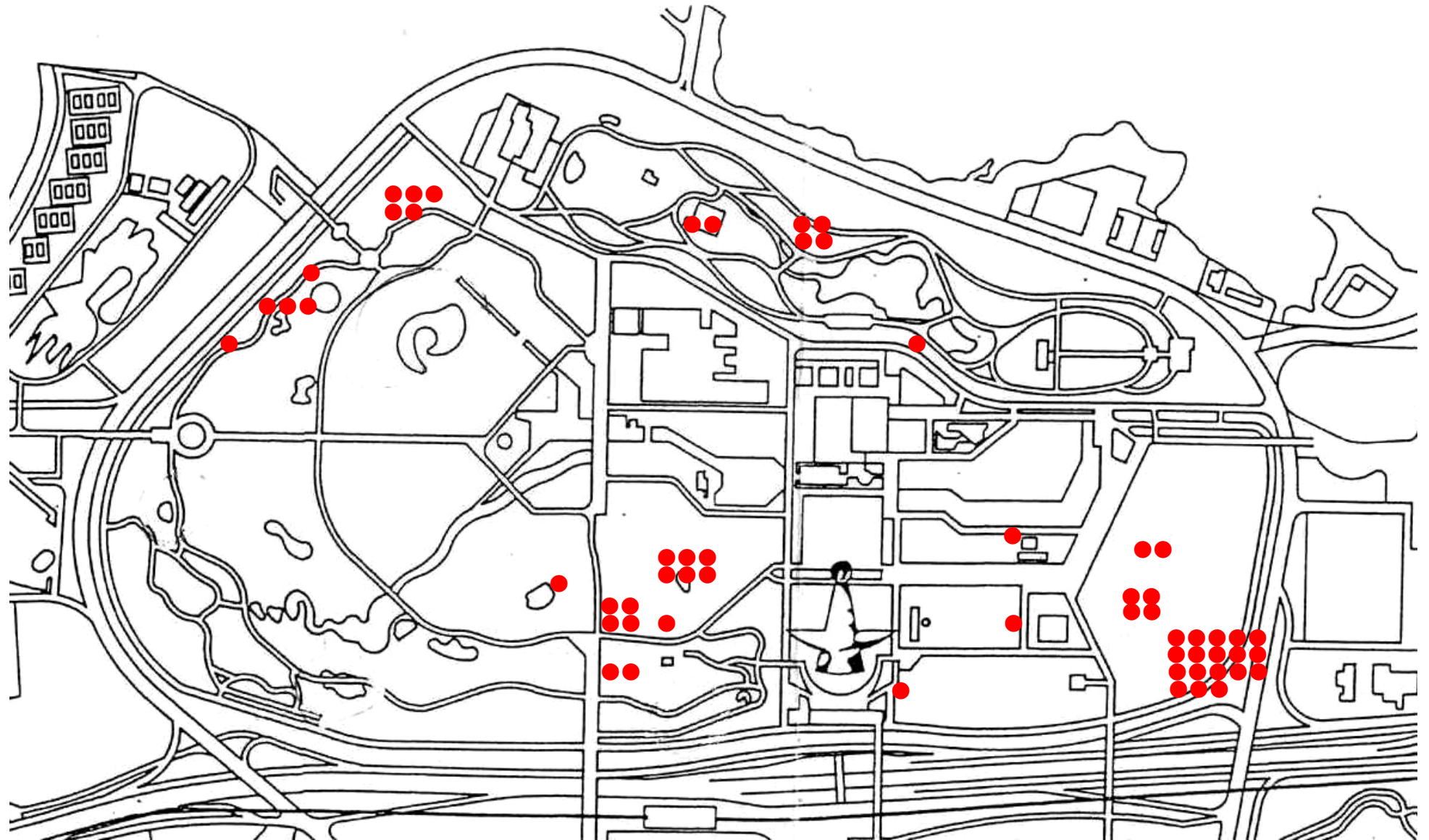
11年春の渡り鳥② ウグイス科

●メボソムシクイ 1羽 ●センダイムシタイ 24羽 ●エソムシクイ 1羽 ●オオヨシキリ 2羽

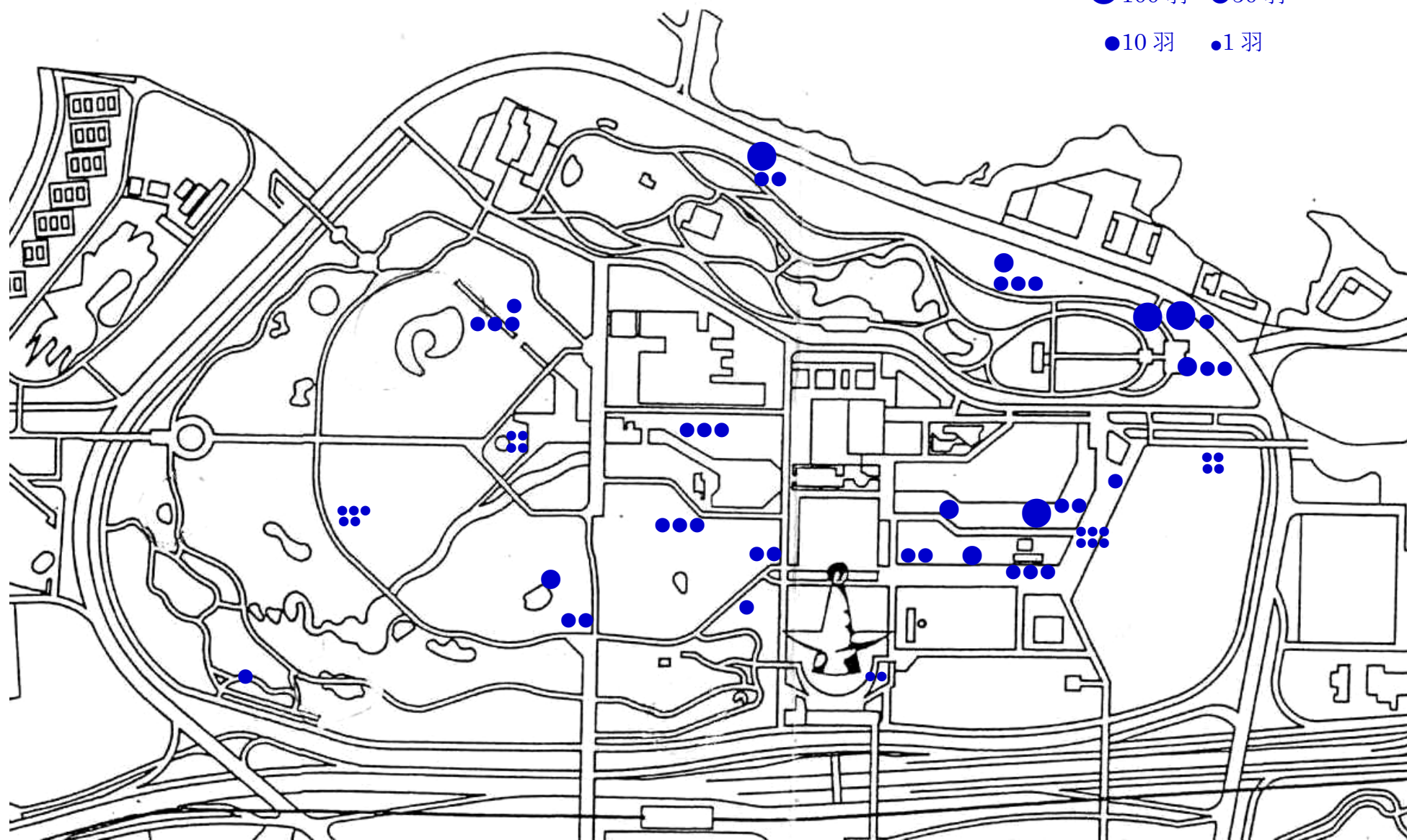


11年春の渡り鳥③

●アカハラ 58羽



11年春の渡り鳥④ ●ニューナイスズメ 991羽



11年春の渡り鳥⑤ その他

●サンショウクイ 8羽

●/ビタキ 1羽

●コチドリ11羽

●クロツグミ 4羽

